トルコ観光振興 WG　現地視察 報告書

➢　アスペンドスについて

日程の最初に視察した遺跡である。アスペンドスの円形劇場は、修復はされているものの保存状態は非常によく、最上段まで登れるほどであった。音響の良さは明らかであり、マイクなど無かった当時の演出がどのようなものだったか想像すれば、この地に立っていると目の前に現れるような感じにさえなってしまうほどであった。最上段の窓のようなところから、劇場の背後を望むことができたが、この劇場の他にもアスペンドスには多くの遺跡が残っているのがわかり、時間があればじっくり見学したいところであった。

【アスペンドス円形劇場】

【円形劇場の背後の遺跡】

➢　スィデ（古代劇場、博物館、アポロン神殿）について

駐車場から歩き出せば、そこは遺跡を踏んで歩いている状態であった。両側には多くの遺跡が広がり、歩道の下にもまだ何かが埋まっているようなところで、そのおおらかさ（適当さ？）に本当に驚いたものである。途中にあった博物館には、浴場の跡もあり、当時の入浴の様子が目に浮かぶようであった。スィデの街はかなり観光地化しているものの、店を覗きながら歩くにはちょうどいい距離感である。

アポロン神殿は残された柱が少ないが、海を背景にしたその場所はとても美しく、特に夕刻は海に沈む夕日が大変美しかった。アンタルヤの見学場所としては絶対にお勧めである。

【スィデの遺跡】

【アポロン神殿】

【スィデの街並み】

➢ アンタルヤ（旧市街カレイチ、ブティックホテル、ハドリアヌス門について

2015 年 G20 の開催地であるアンタルヤは、トルコにとって地中海沿岸の NO.1 リゾート地であるが、旧市街カレイチと新たに開発された地域では、全く違った趣きがあるリゾートである。今回宿泊した地域は最新のリゾートホテルやコンドミニアム、別荘などが建ち並び、アメリカやオーストラリアのリゾートの雰囲気もあって、幅広い年齢層に対応できると思われる。ホテルの設備も充実しているため、FIT からグループまで十分対応できるであろう。

一方、カレイチは観光地化しているものの、古い街並みを残しながら、小さなホテルや店が建ち並び、歩いているだけで楽しくなる美しい街である。カレイチの下にはまだ遺跡があるといわれているようで、まだまだ奥深いリゾート地である。ハドリアヌス門の下にも、そのような遺跡を見ることができた。

【旧市街カレイチ】

【ハドリアヌス門】

【アンタルヤ遠望】

➢ サガラッソス、温泉地カラハユットについて

今回視察した多くの遺跡の中で、私が最も感動したのが、サガラッソスである。まだまだ発掘が進んでいない広大な遺跡の中を歩くことができ、そこには泉、劇場、入浴施設、神殿など、多くの建造物があり、全く飽きることはない。

そして特に規制されていないエリアも歩くことができたり、歩道の周りには崩れた建造物がごろごろとそのまま無造作に放置されていたり、遺跡の中を歩くというよりも、むしろその時代にタイムスリップしたかのような錯覚さえ起こしかねない素晴らしい場所である。今後も発掘が続くと思うが、どこかのタイミングで突然立ち入りが禁止されたり、見学エリアを規制されたり、というような状況になることもあるかもしれない。今後の観光地として注目すべきであるが、突然見学不可になることも考えられ、注意が必要である。

カラハユットはパムッカレの宿泊地として活用できるが、ホテルも設備が整っており、滞在型にも対応できると思われる。日本人旅行者は 1 泊するだけとなりがちだが、それでも温泉地の雰囲気を味わうことができるのではないだろうか。

【サガラッソス遺跡】

➢ パムッカレについて

残念ながら夕日のパムッカレは見れなかったが、それでもその美しさと不思議さは充分味わうことができた。ヒエラポリスの遺跡とのマッチングは、ここならではの見応えとなるであろう。遺跡を視察するたびに古代都市と水との関係が話題になっていたが、パムッカレこそ温泉が古代都市と重要な連携を取っていたことの証明なような気がした。遺跡の上に水が湧き出してできたプールは、世界でも稀有な存在であろう。

ところで今回の視察時はパムッカレに水があまり流れていなかった。どうやら美しい白色を保つために、水の流れる量を調節しているらしい。これは気をつけなければクレームの対象となる。景観も大きく変わるため、もし水を流す時間がわかれば、そのタイミングに訪問を合わせるべきだと思う。注意が必要である。

【パムッカレ】

【パムッカレ】

【遺跡に湧き出たプール】

➢ ダルヤン（クルーズ、泥風呂、岩窟墳墓、アオガニ、タートルビーチ）について

本当は 1 泊していい街である。夏はかなり賑わうようであるが、川沿いにあるレストランや小さなホテルで 1 泊過ごすには、ちょうどいい街だと思う。ただしあえてシーズンオフに立ち寄ることで、トルコの小さな街を散策する楽しみを十分味わうことができるかもしれない。逆の見方をすれば、どちらかといえば素朴なリバークルーズ、美しくはあるが普通のビーチ、ウミガメの産卵地、以外は何も無いような気がする。それが実はいいのだと思う。

泥風呂であるが、これは少し残念な施設である。シーズン終了後だったこともあるが、規模、衛生面など、少々使いにくい施設である。これ以上のコメントは無い。

【ダルヤン　リバークルーズ】

【泥風呂】

【イズトゥズビーチ】

➢ ホテル（マンダリンオリエンタル、マルマラ）について

①マンダリンオリエンタル

確かにいいホテルである。5 ツ星を大きく超えるであろう。欧米の富裕層が好む長期滞在型リゾートホテルである。ただし残念ながら日本人マーケットには販売は難しいと思う。日本からの距離を考えれば、もっと近い場所に同等クラスのリゾートホテルは数多くある。トルコまで行かなくてもこれと同等、あるいはそれ以上のホテルはたくさんある。また、気になったのは、このリゾートは、ホテルではなくほぼ完売と言っていた多くのビラの販売で成り立っているような気がする。ホテルが売れなくても経営は問題無いかもしれない。

②マルマラ

ここは既に日本のツアーに組み込まれているようであるが、非常に素晴らしいホテルである。まずはロケーションが素晴らしい。規模、設備、展望、すべてが良く、日本人にも充分楽しんでいただくことができるホテルである。小グループのインセンティブにも対応できるであろう。難点は少し街の中心部から離れていることだろうか。しかしそれも、あの美しい夕方の展望を見れば、全く問題は無いと思う。

【マンダリンオリエンタル】

【マルマラ】

【マルマラからの夕景・ボドルム市街】

➢ ボドルム（ボドルム城、ランチクルーズ）について

ボドルムは今回の研修で最も良かった場所である。ボドルム城を中心として港を囲むように街が広がり、周囲の丘に白い壁の家々が建ち並ぶ、大変美しい街である。イスタンブルから空路で約 1 時間なので、イスタンブルとボドルムを組み合わせて 6 日間程度の行程も組むことができるだろう。

ボドルム城は見どころが多く、特に水中考古学博物館は展示物も興味を引くものばかりで、半日くらいかけてじっくり見学したいところである。

ランチクルーズは、これも半日、いや 1 日かけてもいいだろう。多くの船が 2 時間コースから終日、2 日間コースなどいろいろと設定しているようで、エーゲ海の美しさを存分に堪能できる素晴らしい時間になるはずである。今回乗船した船は、「HERA」号。クルーは皆フレンドリーで乗船客を一生懸命もてなしてくれる。食事も船上で肉を炭火焼して、出来立てをサービスしてくれる。今回は 2 時間のクルーズであったが、半日程度のコースで行程を組み入れれば日頃のストレスも完全に吹き飛ぶはずである。インセンティブにはお勧めである。

ボドルムはできれば 3 日間くらい滞在して、街歩き、クルーズ、歴史の見学などじっくり楽しみたい街である。

【ボドルム城】　　【エーゲ海ミニクルーズ】

➢　村の模擬挙式について

チョマクダ村というかなり郊外の小さな村で行われる、伝統的な結婚式のデモンストレーションである。質素だが心のこもった料理も出してくれて、村を上げてこの模擬結婚式を見てほしいという気持ちが伝わってくる。しかしながらここまでの距離を考えると、旅行素材として扱うのは難しいと思う。また全体的に屋外で行われる内容だったが、夏の暑い時期、冬の寒い時期は厳しいのではないだろうか。

村を上げて売り出そう、収入源にしようと考えているのかもしれないが、残念ながら行程には組み入れにくいと感じた。ただ、内容的には素晴らしい伝統を見せていただいたと思う。

【チョマクダ村　伝統の結婚式】

➢　エフェス、聖母マリアの家、博物館、アルテミス神殿跡、シリンジェについて

一大観光地化し、世界中から多くの観光客が来ていたが（特に大型客船のエクスカーションとして）、それ相応の素晴らしい遺跡である。規模は大きく発掘も進み、保存状態も良く、繁栄していた古代の街並みが目に浮かんでくるようであった。特にハドリアヌス神殿、図書館の前門などは圧倒されるほど素晴らしい。この国の歴史の重さを充分感じられる場所である。ただし、夏は相当暑いと思われる。休憩場所が無い。訪れる時期を考慮する必要がある。（もしくは、休憩場所の整備を望みたい。）

聖母マリアの家（教会）は小さいながらもキリスト教にとっては大切な聖地なのだと思う。このエリアだけ、他の場所とは全く違った雰囲気（空気？）が流れている。

アルテミス神殿は柱が１本しか残っていないが、火災や破壊が無く、もし建物が残っていたら、その大きさを想像すれば大変残念に思う。

シリンジェは小さな村であるが、その潜在的に持つ力は大きいものであった。小さな古いホテルもあったが、できれば１泊して、ゆっくり歩いてみたい村である。そこそこ観光地化しているものの、それが程よいものであり、日本人の好みに合う場所であると思う。行程に入れるべき、お勧めの場所である。

【エフェス遺跡】

【聖母マリアの家（教会）】

【アルテミス神殿】

【シリンジェの街並み】

➢ ホテル（スイソティル）について

ロケーション、設備、サービス、どれをとっても 5 ッ星級の、イズミルを代表するホテルである。この地では伝統もあるようでセールス担当者の自信に満ちたプレゼンテーションが印象的であった。観光、MICE、大型団体など、すべての案件に対応できる都市型ホテルである。

イズミルの街もじっくり歩いてみたかったが、次のチャンスに取っておくことにした。

➢ アクロポリス、アスクレピオンについて

アクロポリスは、ベルガマの一番の見どころ。丘の傾斜を利用した非常に大きな古代都市の遺跡である。野外劇場は圧巻であった。その傾斜角度は立ちくらみするほどで、2,000 年以上前にここでどんな催し物が行われていたのか、想像するだけで楽しい。ロープウェイで上り下りするが、下りる際に丘の中腹にまだ埋もれているような遺跡があった。おもてに現れていないものが、まだたくさんあるのだろうと思う。

アスクレピオンは医療施設だったという。建造物とあわせて地下道の跡もあり、その地下道は実際に歩くことができた。流れる水音も治療に使ったようで、当時の医療行為はどのようなものだったのだろうか。水は今でも流れており、その水音はおそらく当時とあまり変わらないのだろう。

【アクロポリス】

【アスクレピオン】

➢ TURSAB 主催セミナー、ワークショップについて

TURSAB 主催のセミナーでは、トルコの観光事情に関するプレゼンテーションを拝見した。細かなデータもあり、内容は非常に良かったと思う。紙の資料が用意されていなかったこと、また時間の関係でプレゼンが早く進んだためメモできず、資料のデータを送っていただくよう、依頼してきた。このようなプレゼンでは、資料をプリントして配布していただけると大変助かる。

また、ワークショップでは、現地の旅行会社と貴重な意見交換をさせていただいた。各社とも日本語対応していただき、対日本マーケットをいかに重要視しているか、十分に伝わってきて、私たち日本側の旅行業界も、それに応えなければならないことを、改めて認識した。

【TURSAB 主催セミナー】

➢ その他（ホテル、食事、航空会社等）について

※トルコ滞在中の食事については、どれも大変おいしくいただくことができ、日本人にも合うものと認識できた。特に野菜、果物、乳製品は新鮮さ、味、種類の豊富さなど、一級品であると感じた。自給自足 100%と聞いたが、食事を楽しむこともできる国であることを、しっかり伝えたいと思う。

※トルコ航空では乗り継ぎ旅客の多さには驚いた。私たちのグループのみイスタンブルで入国し、他はほとんど乗り継便への乗り換えである。日本路線の活用方法として成功していると思う。機内食はもう少し工夫があってもいいのではと思った。出発時間なども考慮してメニューを再考してもいいのではないかと思う。

【食事の一例】

➢ 視察先の BEST 5

① ボドルム

② サガラッソス遺跡

③ スィデ

④ アンタルヤカレイチ

⑤ エフェソス

➢ ツアーアイティナリーをお考えください。(最低 1 つ、複数可)

【トルコ イスタンブルとエーゲ海のリゾート・ボドルム 6 日間】

《1 日目》 成田（10:25 発）TK-051 便にてイスタンブルへ。
イスタンブル（16:40 着）
イスタンブル（20:25 発）TK-2524 便にてボドルムへ
ボドルム（21:25 着） 到着後、ホテルへ。 （ボドルム泊）

《2 日目》 ボドルム市内観光（ボドルム城、マウソレイオン博物館など）
観光終了後、自由行動。夕刻のボドルム市内を散策ください。 （ボドルム泊）

《3 日目》 終日、エーゲ海ミニクルーズ
ボドルム（22:20 発）TK-2525 便にてイスタンブルへ
イスタンブル（23:45 着） 到着後、ホテルへ。 （イスタンブル泊）

《4 日目》 終日イスタンブル市内観光
（ブルーモスク、アヤソフィア、グランドバザール、エジプシャンバザールなど。） （イスタンブル泊）

《5 日目》 出発まで自由行動
イスタンブル（14:15 発）TK-050 便にて成田へ

《6 日目》 成田（08:55 着）

➢ トルコの需要喚起（課題、対策、要望等など自由にご記入ください。）

【課題】

外務省の危険情報が、西部ではイスタンブル地区にレベル 1 が発出されているものの、それ以外の西部には、何も発出されていない。一方では先日のアンカラでの事件もあり、トルコという国全体に危険なイメージが付いてしまっているのではないだろうか。実際の状況がどうなのか、旅行先としては安全なのか、人々は平和に暮らしているのか、

外国人観光客はいるのか、難民は市内にあふれているのか、等々、多くの正しい情報を、正確に日本国内に伝える必要がある。まずはこの負のイメージを、何とか払拭する必要がある。

【対策・要望】

（１）正しい情報を可能な限り正確に日本国内に発信することが必要である。

①トルコの最新情報を「映像（動画）」で発信する。新聞広告、テレビコマーシャルなど。

（例：台湾、シンガポール、マレーシア、グアム、ニュージーランド、オーストラリアなど）

②著名人、芸能人によるトルコの旅紀行番組、バラエティ番組、グルメレポートなど、テレビ番組を制作して発信する。（例：BS 放送での旅番組など。但し、スポンサーが必要か・・。）

③日本以外の外国人観光客がどのくらいトルコへ渡航しているのか、そのデータを積極的に発信する。（新聞、雑誌等）

（２）旅行業界では映像でお客様にお見せするには限界がある。（パンフレットや企画書など）旅行業界だけでなくマスコミや芸能界、インテリア業界、飲食業界、（来年であれば造園業界）等々、多くの業界と協力して全体でいろいろな映像を発信して、トルコの素晴らしさを伝えていければいいのではないかと思う。

（３）従来のコース・価格設定からの脱却も必要ではないかと思う。カッパドキア・パムッカレの定番周遊コースだけではなく、都市・リゾート滞在型や短期滞在型など、いろいろな客種へ対応できるコース設定ができればいいと思う。

- 研修旅行においての感想（よかった点、改善点、要望など自由にご記入ください。）

今回の研修は視察先が多く、行程も大変厳しいスケジュールで、夜中の 24 時にホテルへチェックインという日もありました。行程は厳しかったですが、その分、多くの場所を視察させていただき、また多くの方々とお会いすることができ、

大変有意義な研修でありました。

現地の受け入れは、各自治体の関係者の皆様が、それぞれ見せたい場所、見てほしい場所をたくさんチョイスしていただき、同行もしてくださいました。だからこそ厳しい日程になったもので、それは皆様の日本マーケットに対する期待の大きさであり、また熱い思いであったのではないかと思います。皆様には心より感謝申し上げたいと思います。

実際に現地へ行き、自分の目で見ることは本当に勉強になり、理解も深まります。日本側でも在日本トルコ大使館様や、ターキッシュエアライン様、そして JATA の皆様にこのようなチャンスを作っていただき、改めて御礼申し上げます。

なお、一点残念だったのは、参加者が少なかったことです。時期的な問題、実務の都合などいろいろとあったかと思いますが、少し残念に思いました。

弊社としても今後のトルコ拡販に向けて、対策を練っていきたいと思います。このたびは誠に有難うございました。